



# 2011年3月期 第1四半期決算説明会

2010年8月5日  
株式会社ニコン

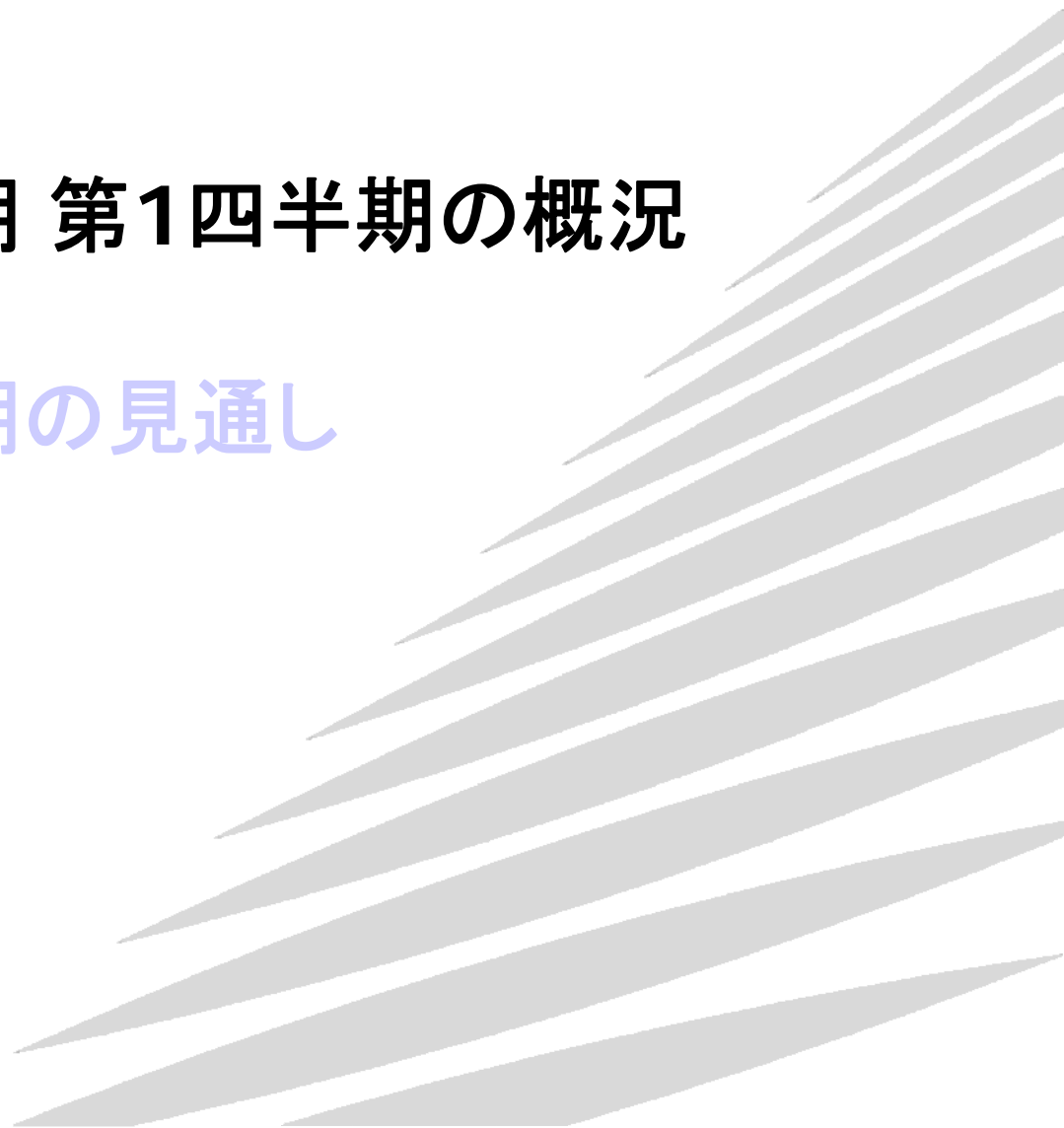
※本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスク及び不確実性が含まれます。従いまして、様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく乖離する結果となる可能性があることをご承知おきください。

# Agenda

**I. 2011年3月期 第1四半期の概況**

II. 2011年3月期の見通し

III. 参考データ



# 2011年3月期 第1四半期 連結売上高・損益



単位: 億円	10年3月期 1Q	11年3月期 1Q	前年実績比
売上高	1,751	2,052	+301
営業利益 <small>売上高比</small>	7 <small>0.4%</small>	113 <small>5.5%</small>	+106
経常利益 <small>売上高比</small>	▲13 <small>-%</small>	127 <small>6.2%</small>	+140
当期純利益 <small>売上高比</small>	▲40 <small>-%</small>	82 <small>4.0%</small>	+122
FCF	▲19	276	+295
為替: ドル (円) ユーロ	97 133	92 117	売上高への影響額 約▲93億円 営業利益への影響額 約▲33億円

円高のなか、17%増収・大幅な営業増益、経常・当期純利益は黒字化、FCFも276億円を確保

\* スライドで使用している数値はすべて億円未満は四捨五入してあります。

	10年3月期 1Q	11年3月期 1Q	前年実績比
売上高	273億円	403億円	+130
営業利益 <small>売上高比</small>	▲101億円 <small>-%</small>	▲6億円 <small>-%</small>	+95
半導体露光装置 新品/中古	7/-台	10/6台	+3/+6
液晶露光装置	3台	14台	+11

市況が回復し、半導体・液晶ともに露光装置の販売台数が増加。  
5割近い増収、営業損失は大幅縮小

	10年3月期 1Q	11年3月期 1Q	前年実績比
売上高	1,354億円	1,488億円	+134
営業利益 <small>売上高比</small>	125億円 <small>9.2%</small>	140億円 <small>9.4%</small>	+15
デジタル一眼レフ カメラ	84万台	105万台	+21
交換レンズ	124万本	156万本	+32
コンパクトデジタル カメラ	254万台	346万台	+92

前年1Q比、一眼レフ販売台数は市場と同様の25%増。コンパクトタイプは、市場がそれまでの前年比マイナスから今期1Qに微増に転じたが、当社は前年1Q比36%増でシェアアップと引続き好調。円高の逆風はあったが、10%増収、12%増益

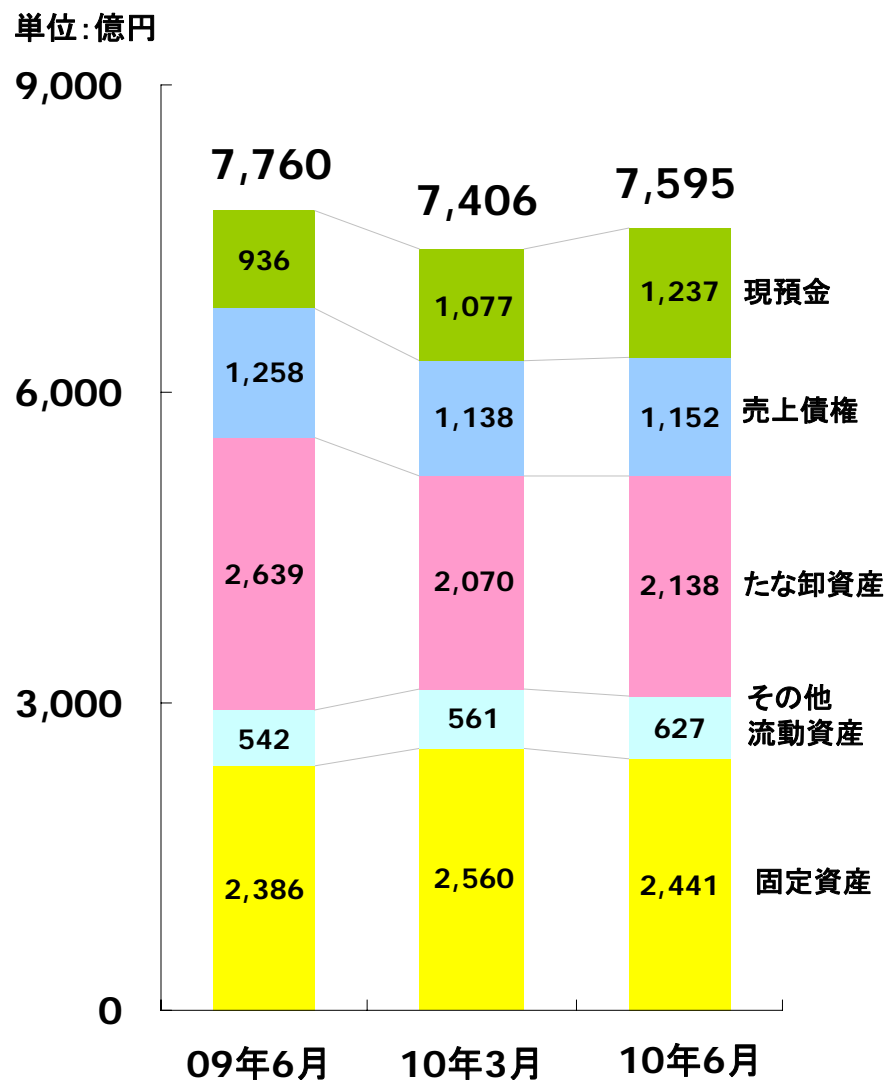
	10年3月期 1Q	11年3月期 1Q	前年実績比
売上高	82億円	109億円	+27
営業利益 <small>売上高比</small>	▲16億円 <sub>-%</sub>	▲26億円 <sub>-%</sub>	▲10

バイオサイエンス分野は円高の影響もあり横ばいであったが、設備投資が回復傾向にあり、産業機器分野は増収。  
営業利益は、円高・新製品初期費・のれん代償却などがあり赤字幅が拡大したが、想定範囲内

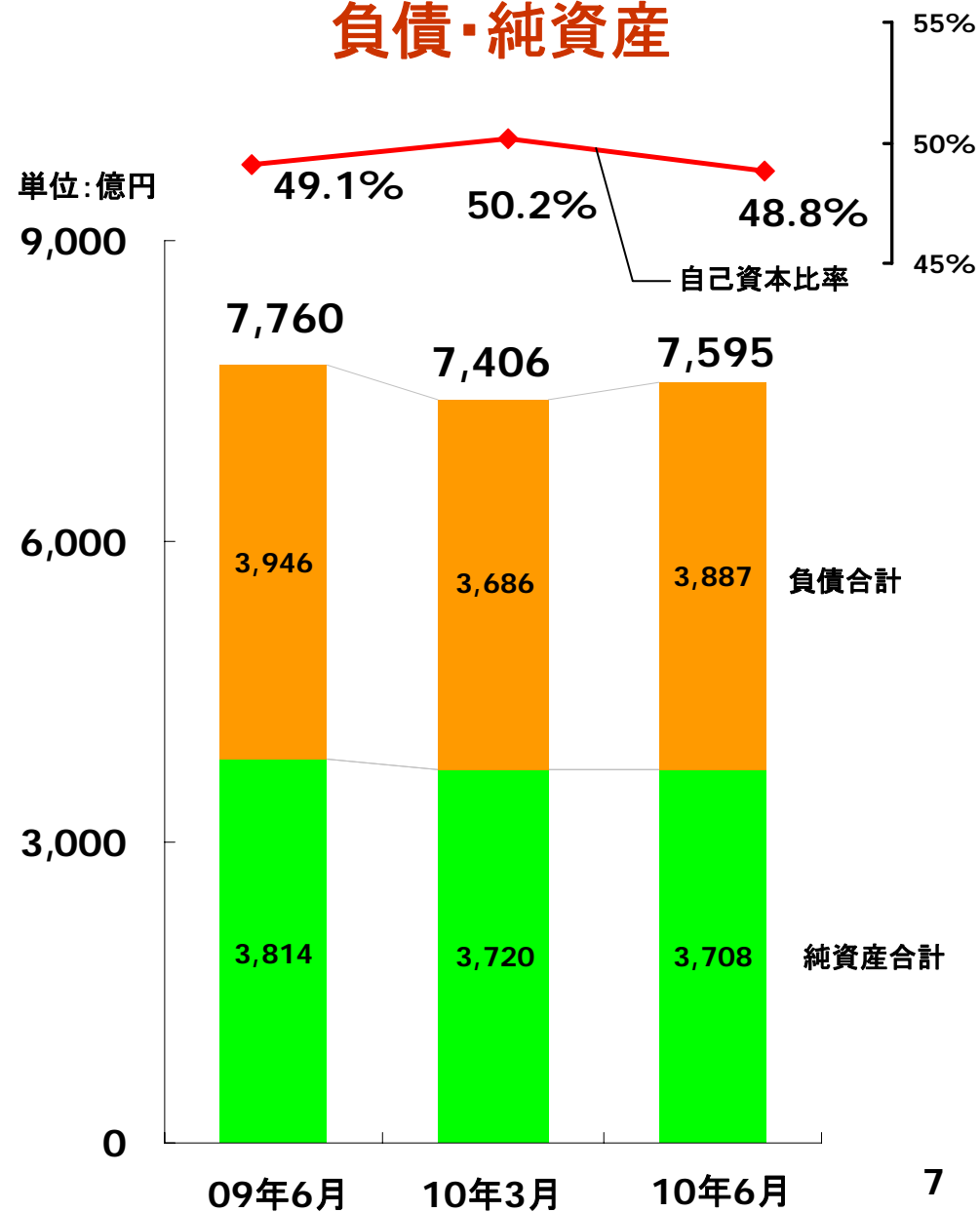
# 2011年3月期 第1四半期 B/S内訳



## 資産



## 負債・純資産



◆前年1Q比17%増収、大幅な(16倍)営業増益。経常利益・当期純利益黒字化

【精機】

- ・設備投資回復基調を受け、半導体・液晶露光装置ともに販売台数増加
- ・48%増収、営業赤字は大幅に縮小

【映像】

- ・一眼レフ、交換レンズともに引続き堅調。コンパクトタイプは好調でシェア続伸
- ・円高の悪影響を吸収して、10%増収12%増益

【インストルメンツ】

- ・産業機器分野の統合効果と市況回復を主因に、33%増収
- ・赤字幅が拡大したが、想定範囲内

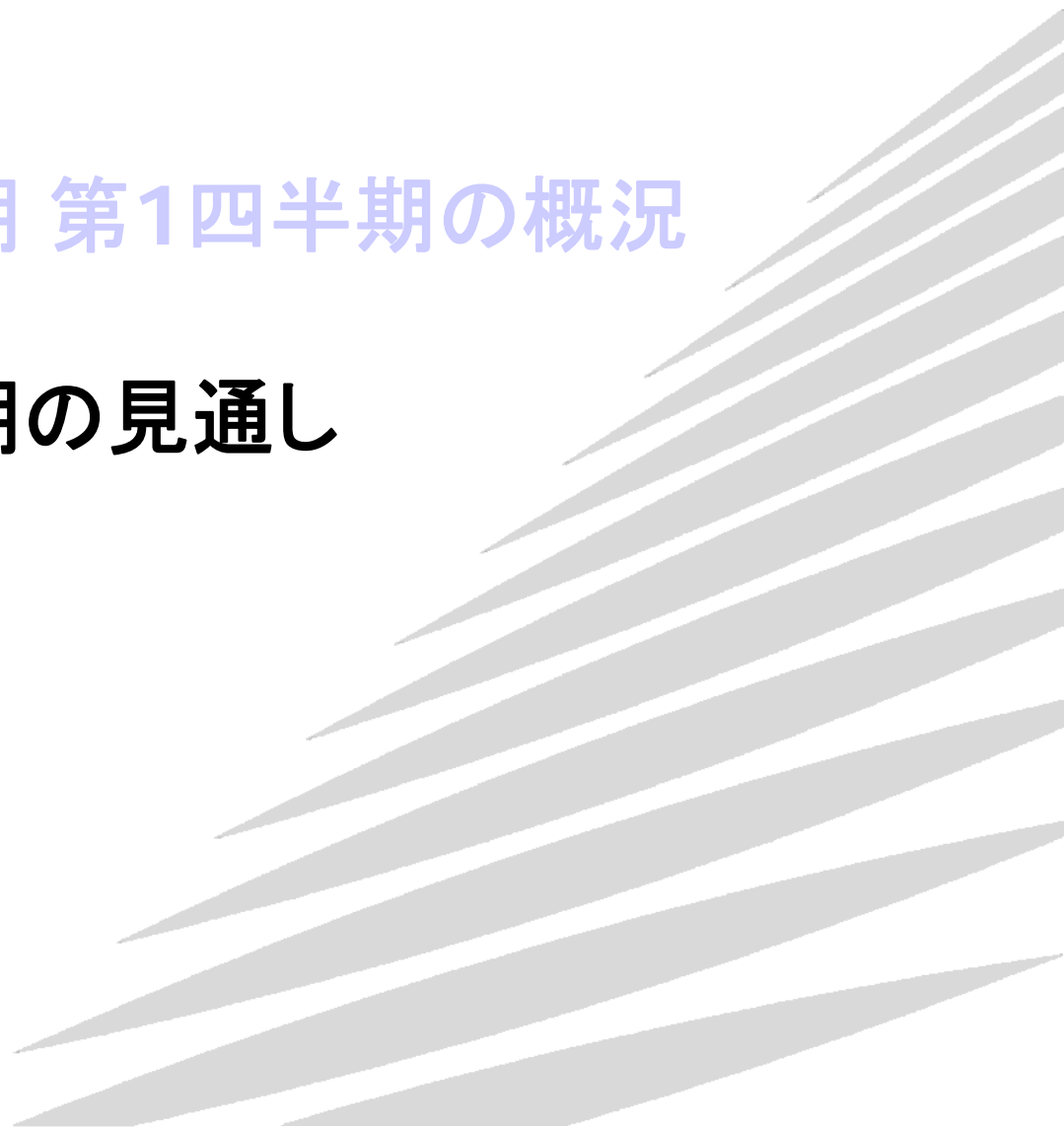


# Agenda

I. 2011年3月期 第1四半期の概況

II. 2011年3月期の見通し

III. 参考データ



# 2011年3月期見通し 連結売上高・損益



単位:億円	10年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/11)	上期 下期	11年3月期 見通し	上期 下期	前年実績比	前回 予想比	上期 下期
売上高	7,855	$\frac{3,681}{4,174}$	8,800	$\frac{3,950}{4,850}$	8,900	$\frac{3,980}{4,920}$	+1,045	+100	$\frac{+30}{+70}$
営業利益 売上高比	▲139 -%	$\frac{▲195}{56}$	520 5.9%	$\frac{75}{445}$	520 5.8%	$\frac{135}{385}$	+659	-	$\frac{+60}{▲60}$
経常利益 売上高比	▲153 -%	$\frac{▲223}{70}$	500 5.7%	$\frac{70}{430}$	500 5.6%	$\frac{150}{350}$	+653	-	$\frac{+80}{▲80}$
当期純利益 売上高比	▲126 -%	$\frac{▲177}{51}$	300 3.4%	$\frac{40}{260}$	300 3.4%	$\frac{90}{210}$	+426	-	$\frac{+50}{▲50}$
FCF	564	$\frac{156}{408}$	500		580		+16	+80	
為替:ドル	93	$\frac{96}{90}$	90		91	$\frac{91}{90}$			
(円) ユーロ	131	$\frac{133}{129}$	120		112	$\frac{114}{110}$			

ユーロ前提を円高に変更するが、通期売上高を100億円上方修正する。営業利益は、上期の見通しを上方修正するが、下期は不透明感があり通期予想は据え置く

\* 前回予想とは2010年5月11日発表における予想です。

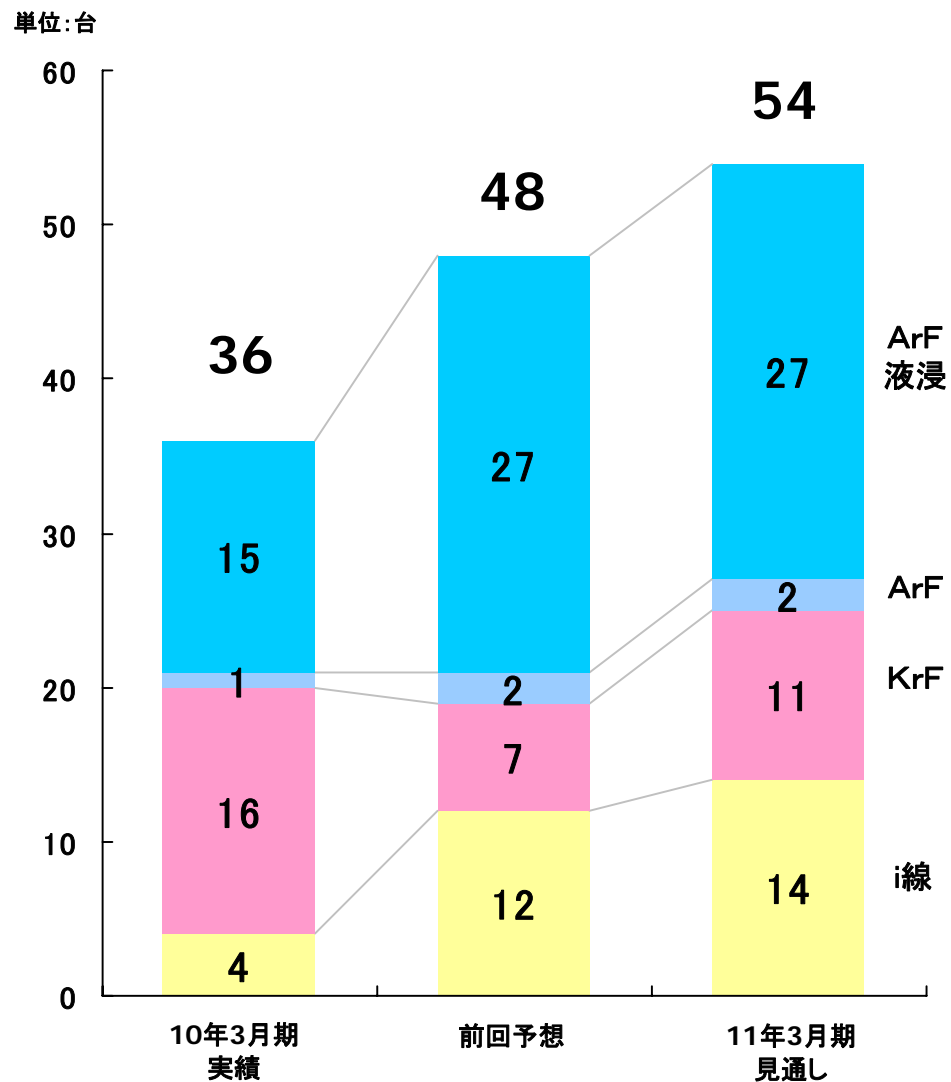
# 2011年3月期見通し 精機カンパニー



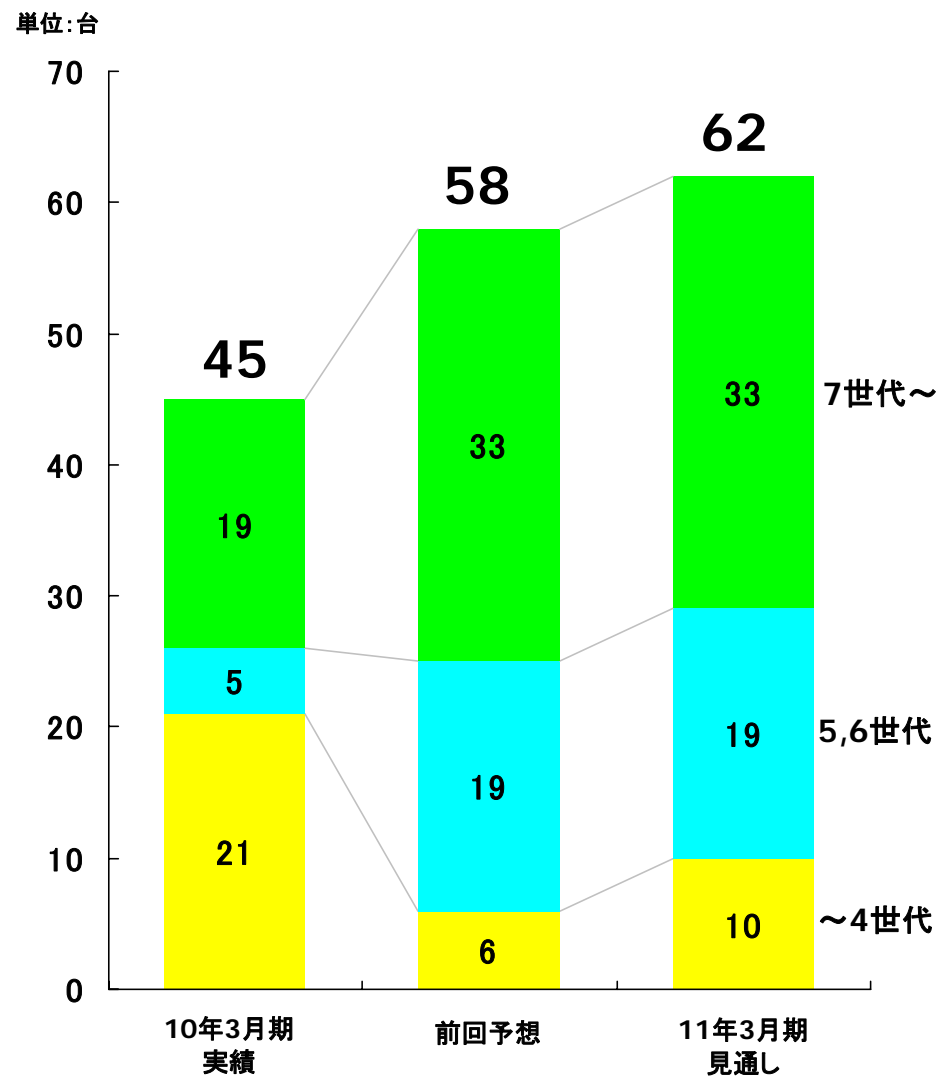
	10年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/11)	上期 下期	11年3月期 見通し	上期 下期
売上高	1,501億円	$\frac{663}{838}$	2,100億円	$\frac{800}{1,300}$	2,200億円	$\frac{830}{1,370}$
営業利益 <small>売上高比</small>	▲586億円 <small>-%</small>	$\frac{\blacktriangle 440}{\blacktriangle 146}$	30億円 <small>1.4%</small>	$\frac{\blacktriangle 80}{110}$	60億円 <small>2.7%</small>	$\frac{\blacktriangle 45}{105}$
半導体露光装置 新品/中古	36/13台	$\frac{18/4}{18/9}$	48/22台	$\frac{17/9}{31/13}$	54/22台	$\frac{17/12}{37/10}$
液晶露光装置	45台	$\frac{16}{29}$	58台	$\frac{24}{34}$	62台	$\frac{25}{37}$
半導体露光装置 市場規模	112台		200台程度		220台程度	
液晶露光装置 市場規模	74台		110台程度		110台程度	

半導体・液晶露光装置ともに販売台数増加の見通し。 サービス収益改善・コスト削減効果なども加わり、通期の売上高と営業利益を上方修正

## 半導体露光装置光源別販売台数



## 液晶露光装置世代別販売台数



# 2011年3月期見通し 映像カンパニー



	10年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/11)	上期 下期	11年3月期 見通し	上期 下期
売上高	5,695億円	<u>2,753</u> 2,942	5,900億円	<u>2,800</u> 3,100	5,900億円	<u>2,800</u> 3,100
営業利益 <small>売上高比</small>	521億円 9.1%	<u>265</u> 256	520億円 8.8%	<u>200</u> 320	480億円 8.1%	<u>210</u> 270
デジタル一眼レフ カメラ	367万台	<u>166</u> 201	420万台	<u>190</u> 230	425万台	<u>195</u> 230
交換レンズ	545万本	<u>245</u> 300	615万本	<u>280</u> 335	620万本	<u>285</u> 335
コンパクトデジタル カメラ	1,151万台	<u>513</u> 638	1,250万台	<u>570</u> 680	1,350万台	<u>620</u> 730
デジタル一眼レフ カメラ市場規模	1,088万台		1,200万台		1,220万台	
交換レンズ市場規模	1,772万本		2,000万本		2,000万本	
コンパクトデジタル カメラ市場規模	10,274万台		10,500万台		11,000万台	

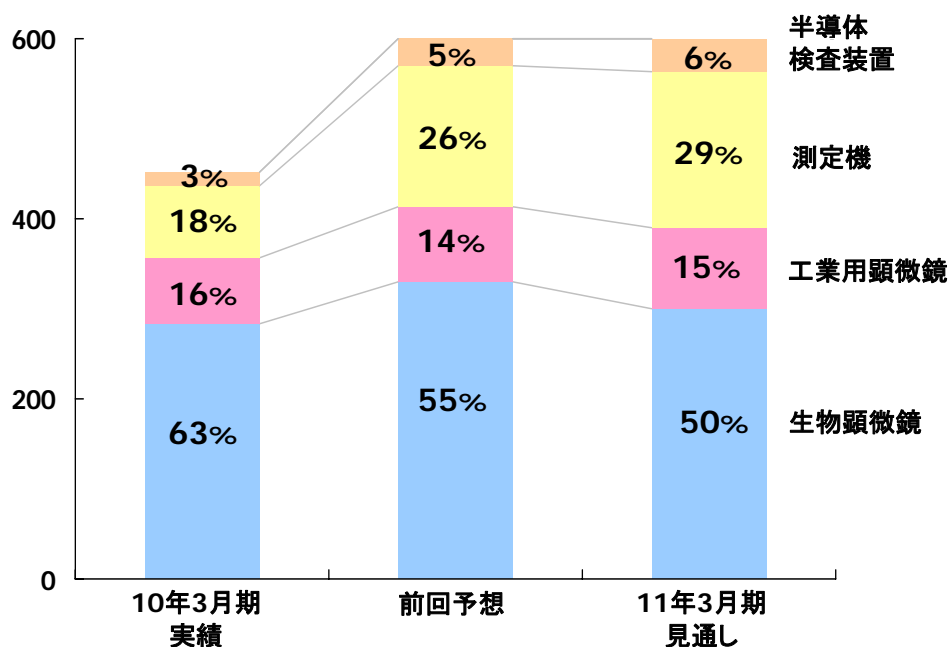
為替前提の変更により通期営業利益を下方修正するが、販売台数増加・コスト削減により小幅に留める。

# 2011年3月期見通し インストルメンツカンパニー



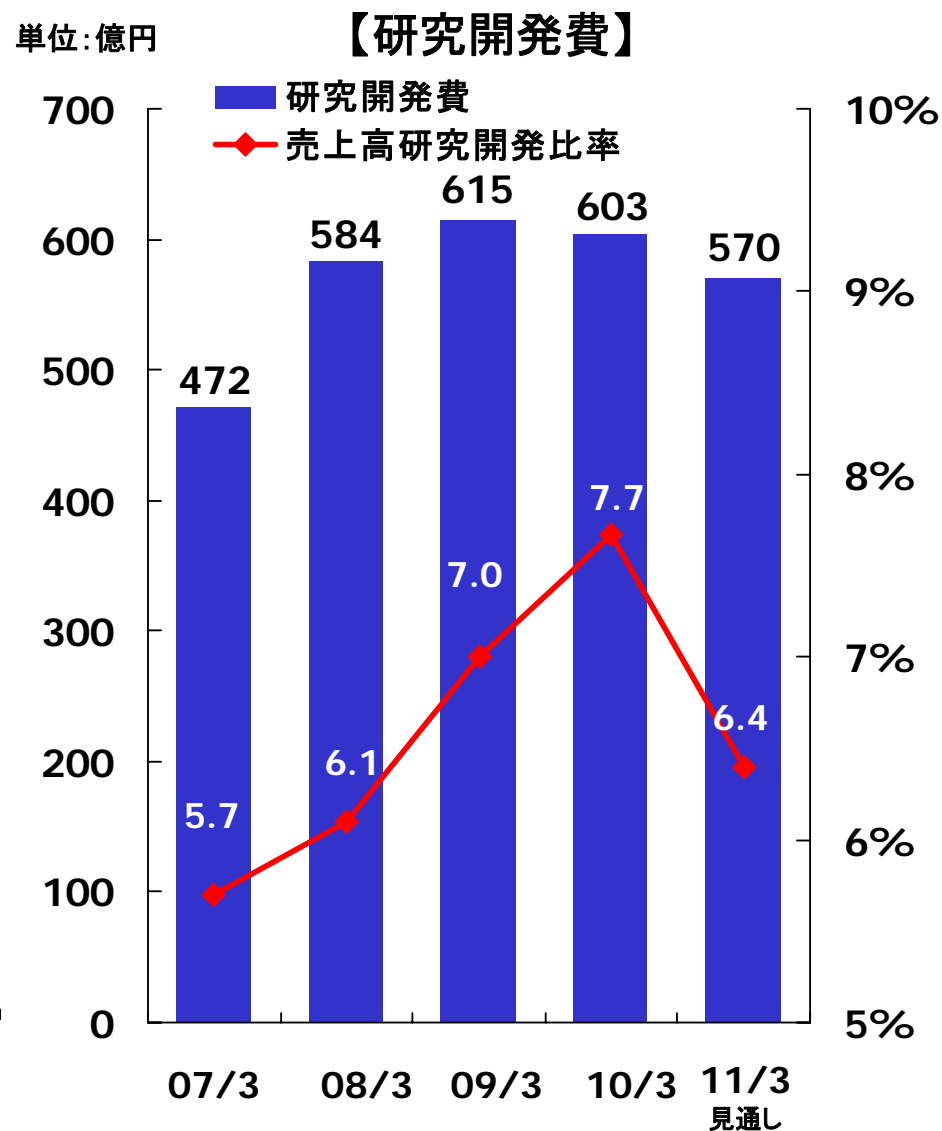
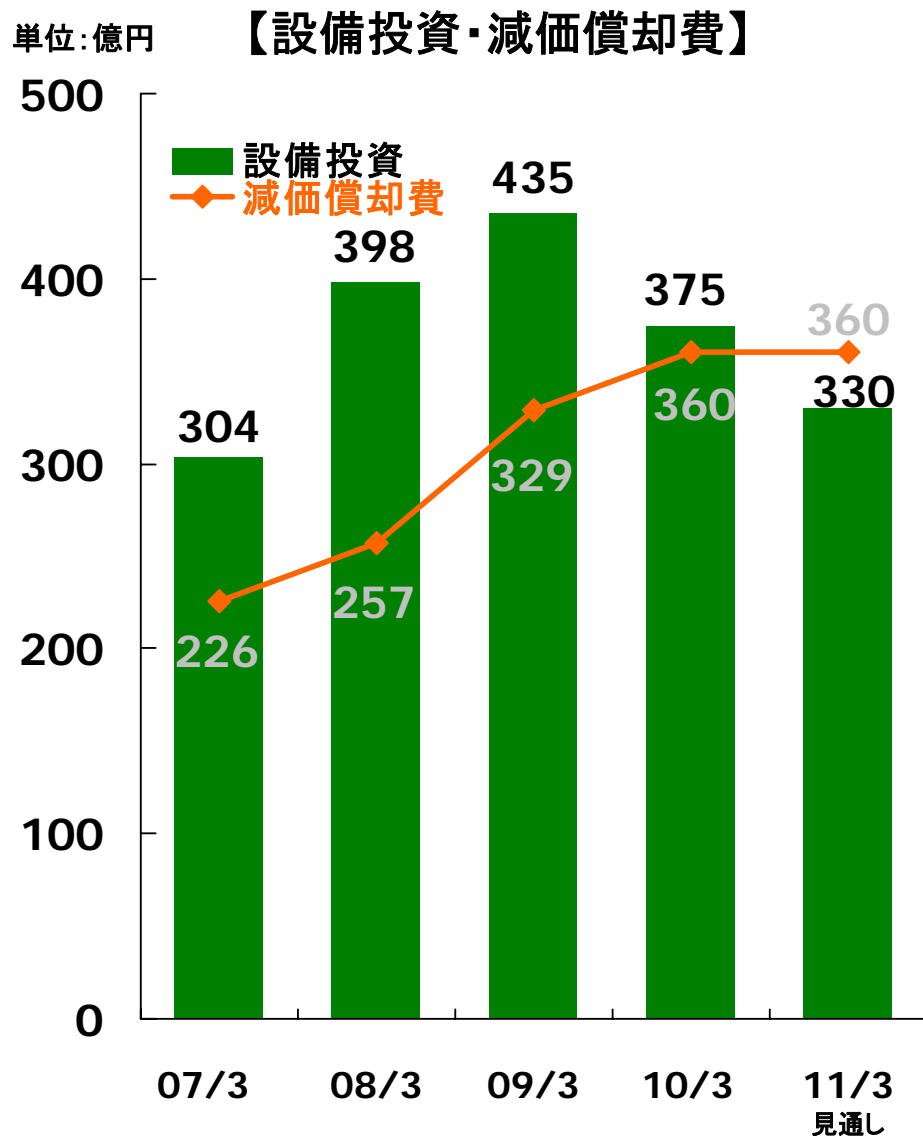
	10年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/11)	上期 下期	11年3月期 見通し	上期 下期
売上高	451億円	$\frac{178}{273}$	600億円	$\frac{250}{350}$	600億円	$\frac{250}{350}$
営業利益 売上高比	▲93億円 -%	$\frac{▲26}{▲67}$	▲55億円 -%	$\frac{▲50}{▲5}$	▲45億円 -%	$\frac{▲40}{▲5}$

単位: 億円



バイオサイエンス分野は、円高の影響などで売上高見通しを下方修正。一方、産業機器分野は日本・アジアを中心に回復、売上拡大基調

# 2011年3月期見通し 設備投資・減価償却費 研究開発費



注)09/3以降には、リース会計基準の変更に伴うリース資産の取得額を含む。

- ◆ 為替前提を見直す(対ユーロ:120円→110円)。  
1Q実績を受け上期の売上高・各利益を上方修正するが、  
通期は、売上高を上方修正、各利益は据え置く

### 【精機】

- ・液浸スキャナー「NSR-S620D」の引合い・受注拡大
- ・半導体・液晶露光装置ともに販売台数増加見通し。サービス収益の改善もあり、上期・通期ともに売上高・営業利益を上方修正

### 【映像】

- ・好調のコンパクトタイプを中心に、販売台数増加・コスト削減を見込む
- ・1Q実績に鑑み上期の営業利益を上方修正するが、通期は、円高に加え経済情勢の不透明感があり、売上高据置き、営業利益下方修正

### 【インストルメンツ】

- ・バイオサイエンス分野は横ばいなるも、産業機器分野が日本・アジアを中心に回復
- ・上期の営業利益を上方修正、下期は据え置く

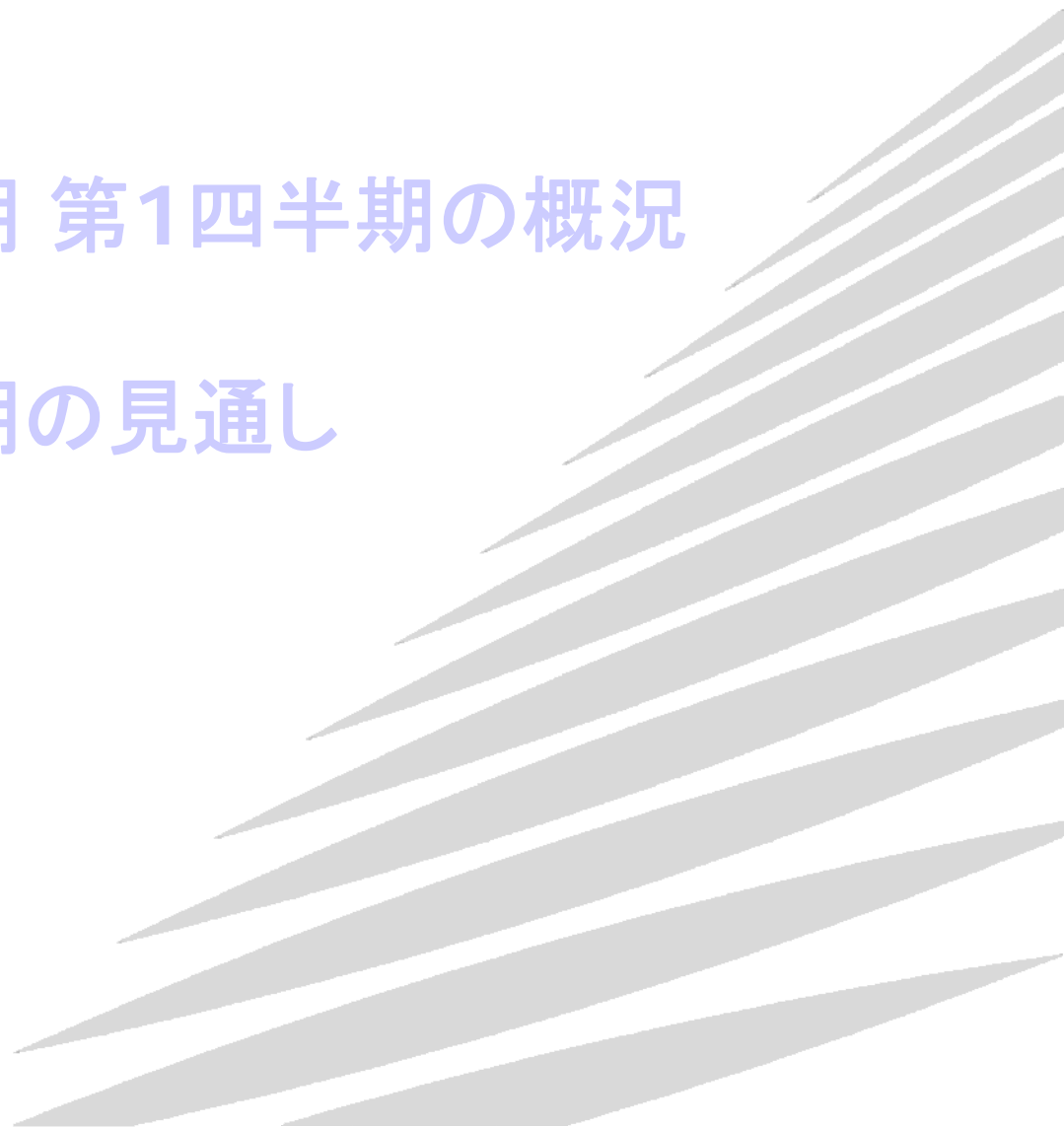


# Agenda

I. 2011年3月期 第1四半期の概況

II. 2011年3月期の見通し

III. 参考データ



## 2011年3月期 見通し

	為替レート	1円の変動による影響額	
	11年3月期 2Q～4Q前提	売上高 2Q～4Q	営業利益 2Q～4Q
USDドル	90 円	約 40 億円	約 7 億円
ユーロ	110 円	約 12 億円	約 8 億円

# 参考データ 2011年3月期業績見通し



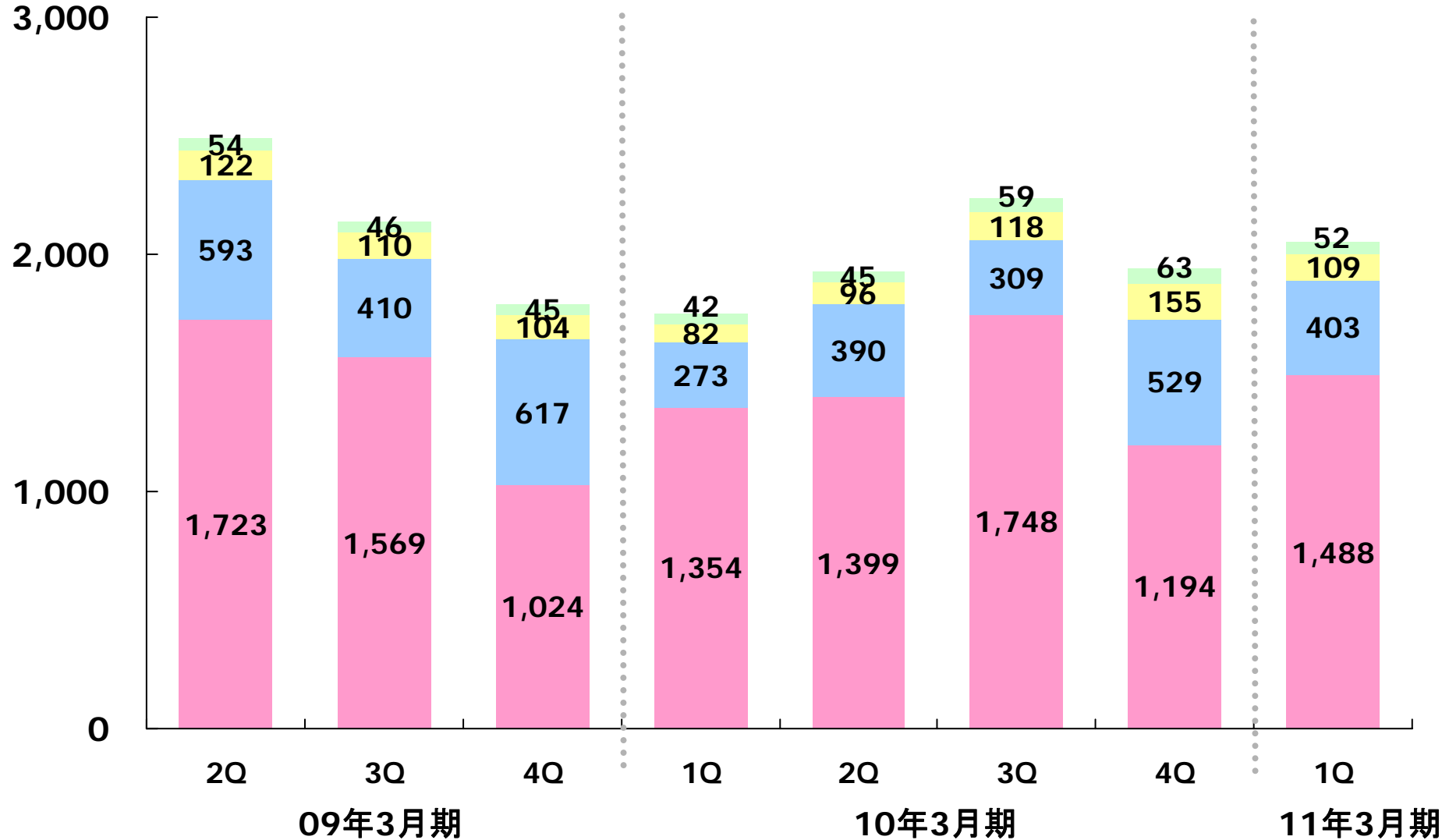
単位：億円

		10年3月期 実績		前回予想 (5/11)		11年3月期 見通し	
営業利益	上期	▲139	▲195	520	75	520	135
	下期		56		445		385
営業外損益		▲14		▲20		▲20	
経常利益	上期	▲153	▲223	500	70	500	150
	下期		70		430		350
特別損益		▲23		▲20		▲50	
法人税等		▲50		180		150	
当期純利益	上期	▲126	▲177	300	40	300	90
	下期		51		260		210

# 参考データ 四半期セグメント別売上高推移



単位:億円  
3,000

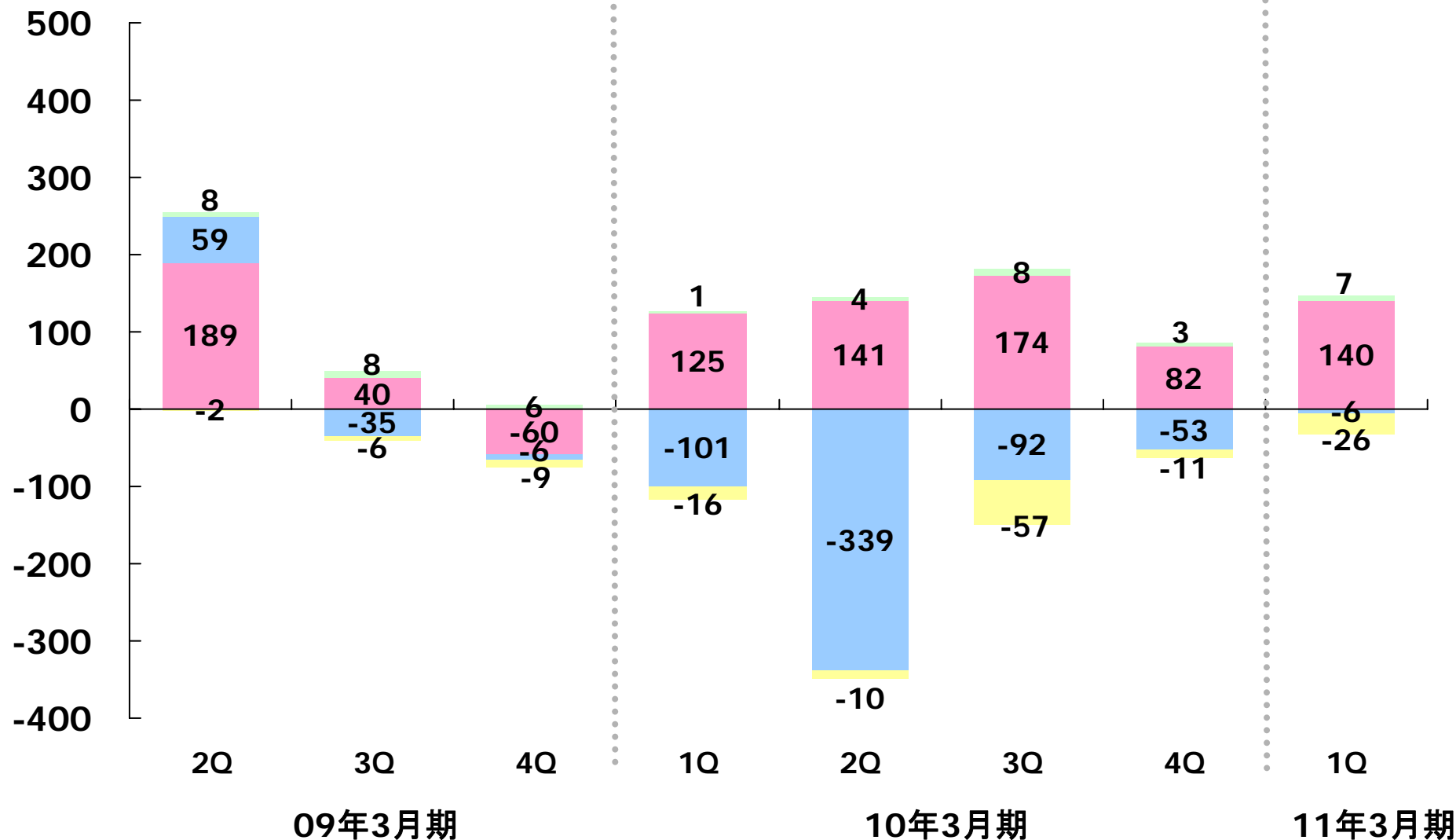


映像カンパニー
  精機カンパニー
  インストルメンツカンパニー
  その他の事業

# 参考データ 四半期セグメント別営業利益推移



単位:億円



映像カンパニー
  精機カンパニー
  インストルメンツカンパニー
  その他の事業